

一人一人の確かな学びをつくる「しんとみスタイル」の実践（令和7年度）

★ 授業改善の視点

1. 身につけさせる資質・能力の明確化
めあてとまとめの整合性

2. 個別最適な学び
協働的な学び

3. 習熟の時間の工夫



① 授業マネジメント ～目指す姿の実現に向けて～



- | | | |
|-------------------|----------------|-------------------|
| ① 育てたい資質・能力を明確にする | ② ゴールイメージを設定する | ③ 教科の見方・考え方を明確にする |
| ④ 発問と学習内容を精選する | ⑤ 指導方法を工夫する | ⑥ 大切な活動に時間を割く |

② 考え、対話する時間の確保 ～仲間と共に学び合う～



- | | | |
|---------------------------|-------------------|-----------------|
| ① 深く学ぶ姿をイメージする | ② 「なぜ?」「どうして?」と問う | ③ 考える時間を十分に確保する |
| ④ 問題を分析し、整理し、結論を導く過程を組み込む | ⑤ 考えを共有する時間を確保する | |

③ ICTの効果的活用 ～子供たちの未来を見据えて～



- | | | |
|---------------|--------------|------------------------|
| ① シンキングツールの活用 | ② 個別最適な学びの実現 | ③ 時間の創出（考える・共有する・習熟する） |
|---------------|--------------|------------------------|

めあてをつかむ

- ・これなんだろう？
- ・うわ～、面白そう！
- ・よし、やってみよう！

考えを伝える

- ・皆の考えがすぐに分かる！
- ・なるほど、そういう考えか。
- ・考えが変わったぞ！！

学びの振り返り

- ・このシンキングツールを使
ってまとめた！
- ・どんな方法で調べようか？
- ・もっと使いこなしたい！

すぐいやく活用、成果を共有

- ・デジタルドリルで確認だ。
- ・QRコードで確かめよう。
- ・先生にロイロで提出しよう。

スタディログの活用

- ・自己評価を記録しよう。
- ・あの時の考えを思い出そう。
- ・この動きがポイントだった。



一人一人の確かな学びをつくる「しんとみスタイル」の実践（令和7年度）

1. 授業マネジメント

(1) 育てたい資質・能力を明確にしましょう。

- ・ 全ての教科等の目標及び内容は、3つの柱で整理されています。⇒ **学習指導要領で確認することが必要です！！**
- ・ 「資質・能力」とは…児童生徒が、自らの可能性を発揮し、社会や人生をよりよいものにしていくために必要となる力です。この力を、授業を通して育成します。
 - ① 生きて働く「知識・技能」
 - ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」
 - ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」

(2) 学年・学期・単元・1単位時間ごとの目標（ゴールイメージ）を明確に設定し、児童生徒と共有しましょう。

- ・ 何を指すのか、何ができるようになるかを児童生徒に示すことで、授業を受ける目的が明確になります。
※ 例えば、登山のインストラクターの重要な役割は、登山者に対して、どの山に、どのようなルートで登るのかを示すことにあります。授業においても同様に、教師が児童生徒に授業の目標を明確に示すことで、児童生徒は授業を受ける意味を自覚し、目的意識を持ちながら活動を行うことができるはずです。

(3) 教科の見方・考え方を明確にした上で、授業内容（発問、活動内容等）を決定しましょう。

- ・ 教科の見方（視点）とは、どのような視点で状況や現象、情報を見るのかということです。例：社会⇒地図を見る際に「人口分布」に注目する。
- ・ 教科の考え方（思考方法）とは、状況や現象、情報をどのように分析し、整理し、結論を導くかということです。（情報をどのように扱って考えを深めるか）
例：社会⇒人口部分をもとに、「なぜこの地域に人が多いのか」をその原因と結果から考える。

(4) 最も大切な発問と学習内容をそれぞれ1つに決めましょう。 その後、必要に応じて補助発問や活動を加えていきます。 **どこに最も時間を割くのかを考えましょう！**

(5) 児童生徒が、学習内容を確実に理解できるように指導方法を工夫しましょう。（ストンと理解させる、腹落ちさせる）

(6) 教師が教えすぎないことがポイントです。 児童生徒が **考え、活動し、共有し、習熟するための時間を十分に確保**しましょう。

2. 考え、対話する時間の確保

(1) 児童生徒が深く学ぶ姿を具体的にイメージしましょう。

- ・ 表面的な知識の理解や習得で終わらず、物事の背景や仕組み、他の問題との関連性までじっくりと考える。
- ・ 学んだ知識を自身の経験や日常生活、これまでに獲得した知識と結び付け、自分の考えをまとめ、それを他者と共有し、新たな視点を見出す。

(2) 「なぜ?」「どうして?」と問う発問で、考えを深めさせましょう。

- ・ 状況や現象の背後にある原因、理由、影響、関連事項、他の選択肢等を多角的に検討する姿勢を身に付けさせましょう。

(3) 発問後は、考える時間を十分に確保しましょう。

(4) 問題を分析し、整理し、結論を導く過程を授業の中に設定し、考える習慣を身に付けさせましょう。

(5) 考えたことを、他の児童生徒と共有する時間を確保し、自身の考えを見直した上で、改めて自分の言葉で表現する活動を設定しましょう。

3. ICTの効果的活用

(1) シンキングツールを活用し、考え方を学ぶ活動を設定しましょう。（比較、分類、理由づけ、関連づけ、具体化、抽象化、構造化等）

(2) 個別最適な学びを実現するツールとして有効に活用しましょう。

(3) ICTを適切に活用し、考えを深め、共有し、習熟するための時間を確保しましょう。